

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>廃棄物最終処分場は、建設時の合意形成の困難性ばかりが注目されるが、実際に設置された処分場の埋立完了後の廃止の作業も重要性が高い。</p> <p>本課題は、廃止に向けて安定化を図る際の維持管理手法を検討することを目的としており、特にキャッピングの効果に注目している。</p> <p>26 年度に既にかなりのデータが得られているが、キャッピング前後のデータの比較は、有用な知見が提供されることが期待される。</p> <p>過去のデータの解析が遅れているという報告があったので、最終年度に向け、体制強化を図りたい。</p>	<p>本研究は、現場の地域県政総合センター担当者の判断材料となることを期待されています。</p> <p>気候変動によるゲリラ豪雨などの増加により、今後は水量をコントロールするための被覆型処分場の設置あるいはキャッピングの施工事例が増えることが予想されるため、今回効果検証を予定しております。</p> <p>タイミングよく工事前後のデータ採取が可能となりましたので、この機会を生かして成果につなげたいと考えております。</p> <p>過去データの解析については、現場の職員に対する研修も兼ねており、将来的には自ら実施してもらうことを目標としているため、今後進捗を早める予定です。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p data-bbox="174 389 936 456">社会的ニーズは非常に高い課題。共同研究を行っているところも意義が高いと思われる。</p> <p data-bbox="174 496 936 563">福井の処分場の埋め立て物と浸出水の比較も解析に含めてはどうか。</p>	<p data-bbox="981 389 2089 456">現場からのニーズを踏まえ、出来る範囲でテーマ設定した課題ですが、全国的にもほぼ共通した課題となっております。共同研究に参画している各研究機関の力を結集して検証します。</p> <p data-bbox="1010 504 1435 536">2つの処分場について比較をします。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>処分場の運営主体との協力の上でしか実行できない研究テーマである。また、日本全体としても重要な課題であるので、県のセンターとして取り組む意義は大きいと認識する。</p> <p>雨により浸出水の流出状況が大きく変化するので、雨の後の時間間隔を狭めた調査を計画すべきではないかと考えた。</p> <p>最終的にキャッピングの効果が評価できる研究成果を期待する。</p> <p>労力との関係があり困難かとは思いますが、浸出水中の化合物については、より対象を広めることができると良いと考える。</p> <p>2年の計画だが、重要な研究テーマであるので、何らかの形で継続的な調査研究にすることを検討して欲しい。</p>	<p>現場が県営処分場である強みを十分に生かして、取り組みを続けたいと考えております。</p> <p>以前実施した研究において、大雨後 1 週間程度連続サンプリングを実施した経験があり、処分場によって異なる知見が得られております。本処分場でも実施したいのですが、構造上浸出水の出口から直接サンプリングが出来ず、一旦調整槽へ貯留する形式ですので、残念ながら直接の変化を見ることが難しい状況になっています。</p> <p>キャッピング後、どのような変化が生じるかを把握して最終的な評価につなげたいと考えております。</p> <p>埋立物がこれだけ無機化している状況ですので、実際に多くの化合物が検出される可能性は少ないと考えられます。出来る範囲で分析を実施する予定です。</p> <p>処分場に関する問題は山積していますので、また違った視点からの調査研究についても、検討します。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>産業廃棄物最終処分場の早期安定化に向けたモニタリングの検討を行っており、神奈川県内のみならず、重要な成果が期待される。これまでの観測データも、蓄積が進んでおり、今後の解析が深められることを望む。併せて、キャッピングを実施した際の最終処分場内部の変化(ガス、水質等)についての検討例はなく、貴重なデータが収集されている。こちら継続的な調査により、長期挙動が解明されると推測される。共同研究との連携で、大きく異なる埋立物の処分場との対比も有益な情報が得られると考えられる。降雨の影響も見られることから、簡易連続測定できる項目などを測定することで、汚濁物質の短期的流出挙動を確認するなど、細かな対応も期待したい。</p>	<p>簡易連続測定の実施については、平成 27 年度取り入れる方向で検討させていただきます。</p>